

外
野
生
鑑

新増外題年譜目錄

○古流井と播磨極分こりゅうい

○同門券井と市市を交分いもんけん

○同日清水に居る分ついで

○同日山本古佐極角を交分やまもと

○同日門本松本派を交分

○ 同 日 都を吏一中 分

○ 日 古古路國を吏了

○ 同 固本文弥 分

○ 日 門吏所波を吏 分

○ 同 字派加賀板 未を吏了 分

○ 日 門吏整田若授富松薩摩 分

○ 同 伊勢鴻文門日依を吏了

○ 日 道具屋吉良 分

○ 同 表具又空布 分

○ 尚流竹本表与を吏 分

○ 同 仔者出羽板在 分

○ 日 明石越後 分

○ 同 陸竹小和白水 分

○ 同 江戸を竹肥蒸極 蒸極 分

○ 同 京行本義を主在之事

○ 同 大坂諸所諸方淨瑠璃始り之り

○ 同 尚流祖行本後極 分

○ 同 豊行越前極 分

○ 貞享（1704） 己未丙午替淨瑠璃初日年月日記

○ 古今を主受領年月日記

○ 丙午を主出在退在之事

○ 出張出を始り之り

○ 時代事世俗淨瑠璃始り之り

○ 出張を主ワキツ三絵人形出を日記

○芝居之表に懺進物せんしんぶつホカ来きこ之始はじり

○多おほく物言道具達ものごころづ之事

○齊いっせい音おん小幕こまくらヲ引ひ初はじ之事

○正ただ座ざ之本もとと換か本ほんニ悲かなス時とき之始はじり

○あなをよじ始はじり之始はじり之事

○目錄もくろく

○堀江市側豊行とよゆきは太夫座たゆうざ之分

○大坂取々新浄しんじやうる利り之分

○江戸表新浄しんじやうる利り之分

○京都新浄しんじやうる利り之分

○讀本よみほん浄じやうる利り之分

作者附しやうしやのからうひいはり同どう上じやうとおままあらを
二に交ま目めのことは何なにらに佐たす者もの付つたり

Il y a un certain nombre de personnes qui ont été...
dans le monde de la littérature et de la science.

○ 櫻本花見の物語

○ 花見の物語

○ 大坂の物語

○ 大坂の物語

○ 大坂の物語

○ 右流井と播磨板
花門人 井上布衣を夫分
傳多見云傍

新十二伝
元公右の十二伝と
傳り云々云々

日本書紀
元中右の
元中右の
元中右の

女神鏡
元中右の
日向系流と云々

二親孝行
元中右の
元中右の

白旗の中素
八幡を中
と云々

五天竺

祇園精舍

天鼓

大友真鳥

日本王代記

荏柄平石

神道撥通

百合若磨

甲賀の二布

源平恋の遺恨

道教禪師傳

長谷寺利生記

土蜘蛛退治

今剛彦左文字乃

兵庫の繁治

二代乃敵討

田村將軍初観音

利屈お徳

一休物語

頼光孫目論

源氏繁紫合裁

根元お我お徳

聖徳太子傳記

業平一代記

源氏換田合戦

損義北園落

花山院物産

損朝七邊落

菅原親王行状記

蒲津曹司東踏哥

金剛山合戦

大至我富士牧将

賢女手習鑑

日向京流

信濃源氏本多軍記

大磯冠知畧玉取

大念佛由来

三浦乃寸軍法競

楠千早合戦

河津相撲の遺恨

東大寺大佛縁起

佐々木後戸先陣

三浦大船老後巻

源氏十五伝 井上市房美

五大力菩薩 上

待宵物語 後水理彦

源氏東乃門出

上東院 右二日

松浦五郎旅日記

井上氏一出生之巻、外一淨方り百餘歳と
そとく中西沃氏の標年代死こへしり夜
予又史及りたれど、夜こいまる
追く考へりさかへり

○山本土佐塚

角太夫

花 松平流を夫

都を夫一仲

分

楠天外名法回答

角田川

小燈管

むらさきの巻

巻子巻

天觀若る巻

阿漕平次

傳教大原記

王照若

生捕八百人
清水晴玄

源氏蓬萊三ッ物

三糸小艇派

女人往生記

初基誕生記
久米仙人

都志王丸

孤彈内近

天王寺宿客中目

長光寺用帳

信田小左郎

信太妻

鯉井太市若初卷

西教寺七方日廻向

三世三河白道

小敦盛

袴被

小栗判官

逆發王子換車

周情堂用帳

眉間天拍繰

石童子

浦嶋老郎

八麻大臣

四十八願記

平親王将門

苑山法皇順礼記

架汝衣陣前拍繰

酒吞童子

日蓮聖人徳行記

高砂

松平法をま

牛若東下向

源氏馬帽子折日

後九弁盛長法合令王凡
二の人数は和て是を計す

石川又左衛門 有

徳会神日記 日

八嶋合戦 日

清和寺利生物語 日
延安六年八月

傳授小町 日
日 中

万石船六公中 日
上三

松久末の松山 日

菜種の花盛 日

幸湯温泉 日

三近江八景 日

愛深の王親向松 日

川系松中 日
日

○田本文弥花阿波を丈分

三株を丈

源忠上人記

曇雲を師範

大職冠方便の玉

阿弥陀坊

守野大臣

日親上人法難記

中将姫蓮蔓陀羅

三回八幡御傳記

意塚抄語

百合義高繁攻

契史國物語

長命寺用帳

中山利生物縁

厚金文七

元禄十二年壬午八月十六日
佛仕置之命曰九月九日初日

善光寺用帳

照天姫採車

當世様續日本紀

世三間堂棟由来

母本文縁同河波を夫松本流を夫於を夫一中等ハ
何也此也師古依極又ハ井上氏の傳りりと多分流

らるゝに新化多しに別して中の骨子之古流を夫
竹本を竹の世流傳るゝ其を夫一流に於て
中人一生此る新化又後流の時代より新く
と及不化

○宇治加智極 嘉を夫り 花門身衣の分

大磯虎道世記

小晒物縁

百人一首

西王母

一心五戒玉

身替問答

融大臣

榎本丸

西行抄綴

吉備大臣

俵辰左

中将非

今川了俊

大佛供養

深殿まきこま

淨觀寺じやうくわん八坂塔

和田軍

柏崎はらけ

弓削道鏡

元服もとむく芳我

融やま龜かめ大念おほのぞん仏

日本武尊

夜通よとほり姫和光玉

十六夜物結

夜討よと万象

當流小栗物結

阿弥あみ字な任に東とう大だい全ぜん

丹生山田

小袖こすそ芳我

梅うめ兩りゆう左さ門もん由ゆ來来

三井さんせい古こ和わ女にょ

清きよ行ゆき道みち海うみ行ゆき乃の淨じやう

摩ま耶や山やま用もち帳ぢょう

小笠道風額掬

法隆寺用帳

弘徽殿嫉妬抄

源頼家鞠始

神武帝洞正月

藤原守忠彦

惟言惟仁佐藤

大原同春

三社乃統宣

須磨寺三葉笛

富貴多象

門出八傳

浦嶋太郎七世縁

遊行上人名号記

曆 傾城及魂香

蒲冠者鞠物

賢女相生松

弱法師

後物草

いろは物語

天神御本地

多羽意塚抄終

世継多我

いほりりの時おのりの人取よとせ
初しおは原せと立物人取よとせとせり

伏見常盤

藍染川

東山殿子日遊縁のいのちをい

岡本小六東六法

平安城都遷

おのり
徳十郎 哥念佛

葵の上

凱陣八鴻

本領る我

弁慶京土産いやり

頼朝由井演也

長門中將北三夜侍ちんげ

乃我七ツ以呂波

津戸之郎世生要集

源三位頼政

白馬判官盛久

義経懐中硯

川萱道心物結

栗原女之躬

遊看二世相

葛葉道公物結

固扇芳衣

赤永忠則

續城七弟小袖賣

石山寺用帳 中田多松

吾妻寺七穀起清 口

新腰越新狀 口

西明寺殿行脚松 五松

夕寄箇乃被 口

公椽候終蓋物終 口

白蛇奉命 伊友 流穂

右園蕙房添 口

舎利 雜波五人男

忠長男替物終

傾城次女見沈

富士河同棟樂禱

辛添一本松 口

魂産天親音 口

女人即身成佛記 口

傾城八重栞 口

石山寺花栞 口

南於脚親奉 口

加勝乃我 条盛久地獄忌 口

誓願寺名号記 口

傾城今西仍 口

鞍馬山師弟抄 口

玉葉髮七人化粧 口

念佛往生記 口

遊行念佛記 口

損改歌道扇 聖田 享保四年十月十日

傾城我立杓 聖

傾城法間嶽 口

龍城連理袴 口

倭勢所遷宮 口

傾城浮洲岩 口

八幡文和光白旗 口

三井古豊年續摩 口

大黒天万宝所藏 口

南大門秋波卷 口

愛宕山旭峯 口

大和歌五教之紙 口

傾城紋日曆 口

忠臣倭呂波夜討 口

関東小六丹前安 口

扇乃芝

加老史の先師倭勢傳文内傳るりも江戸の文よりま
おと回ふこ又区後の外巻と中及び元文内門人佐老史
板ニ系辭と云一人京於水遊る芝居と真妙久々勤
これ一色板邊の石か安板と井上氏との傳るりと終る
多し之又かか板才子聖田新様小世七年松本存存為定
芝居の老史より久く勤く多し一色板の傳るり多し
此は小一色去まのまろ流さかると老花河内本在口一物申
蜀雲氏八口条空流か老史定芝居して空流之内本と回存

〇道具五吉九徳節
〇天王雷綸
〇金平地獄破
〇三系合戦
〇表具又四節節

藥世系同卷

鎮西八節

三系合戦

〇表具又四節節

本石百義仲

難波八系

系紙洗小町

忠臣共振

右乃西人公井三氏の浄よりと多分終れ之

〇竹本森世老史乃根漆芝居ら京保軍

辨宮東門阿波町戸

鉄将校現馬牛王

け人乃松城ら芝居具新やれ節若浄より

○伊後出丹掾芝居る

一心二河白道
唐令文七

前内裏侍王城遷

作者 卷由物守保七年十二月十日
未待費 伊後伊志史和出產

孝謙天皇儀文禮

是ハカ一の乃其真の者
付多節より芝居終了

○明石越後乃根保芝居る

三軍栲栲原

撰并 延享二年正月十二日
女藤若 伊志史作中源左史

延喜帝秘曲琵琶

同年五月及上ノ三日
作者 紀耳谷

○陸行小和泉芝居乃根保る

歌枕棗棠合戦

作者 春柳堂 同三年
兼宗助 寅八月朔日

唐令茂乃東蠻

女舞劍楓 作者 春柳堂
大越り 同三年十月廿日

鎮西八郎射集

作者 春柳堂
氷室地大内軍記
大切出預り 依 和太夫

此外古代ニ虎爪衣志史次ニ陸奥衣志史ニ井蓋志史
永傳志史作中源左史辰吉八郎志史志史大坂表々

芝居奥好志史一ノ花何志史と井上作中源左の源あり
と傳れ一ノ志史志史志史志史志史志史志史志史志史

○江戸豊行肥前板 新古史事

享保十九甲寅の年江戸表三立御家
年乃百八若松丹後板と云々代々芝居と
奥乃やそれと及又辰松氏の芝居にて
勅めらるる一が元文中よ今の芝居と求む
善法成然一を竹肥前板系法正と新と

に櫓幕と扱れり尚新浄りの如

石橋山禮襲 寛保六月暫
作者 後長孫年
九取太集

日蓮記兒硯 寛延三年十月
在入道雲門直心
並末宗師直心
枕持の宛

増補日蓮記 及江戸の
今見硯
小山判官
信田小太郎

新板重抄 寛延六月暫
著葉良也

禮の渡ち 幅作二三
寛延四年八月暫
親麿寺聖人繪傳記

十五 田男
女 年記枕詞 宝元一
七月廿日
佐田博実

聖徳太子職人鑑 宝元八年
八月廿日
墨子加賀隆也

尚在 三 改 三 改 三 改 三 表乃外紀辰松表採

芝居付三十二年の召八何れも大坂竹本
豊竹あやの彰浄るりたを替りく
不勤く取彰化乃外記と又字及凡

○京都竹本を義を史芝居

宝曆三酉才をふ多公大坂竹本此浄るり

花京京都鑑

宝曆十二年三月廿一日

契情阿古屋此松

宝曆十四年申ノ正月

赤羽二重娘形氣

同年四月十七日

○當流竹本筑後掾 義を史事

竹本義を史ハ掾召天正寺村豊家の

出書成一々若年の比々并上掾麻掾

の浄留理成好々之御召りやれ延室

年中大坂虎倉寺長史芝岳と勸め
天和年中京於少く、宇治加賀
椽芝岳と勸め貞享二年大坂、
改、道長堀を自分、櫓城揚て常
芝岳成豊初より水、後飛後椽と
文録より家初貞享二年より

天和四年を八十二年あり而芝
豊昌也、家初より初より浄る、初日
年月日小為、他亦、初又、名言を、真宗
の出、存、延、存、高、細、記、凡

世継名我

貞享三年乙丑二月初日初日
宇治加賀椽方の古澤より之

益深川

右日記

日辛四月八日

いふは物語 右口抄
日年七月十日

一心五戒玉

右口抄

賢女手習濫

日年九月廿一日
井上揚屋源方の在落り

頼朝七騎落

右口抄
日三年正月二日

出世景清

化者近松因高
日年二月四日

是近松門左衛門行本義左衛門新清より傳の
初ありは是より近松氏より傳はるる後が故、
乃り多分新傳とせしれりあり當長系於
此

依々木大濫

又依々木先陣
作者同上

日年七月十五日

多田波仲祀

日年九月十三日

達磨の本地

貞享四年丁卯年正月八日
尚三月八日申五時頃

源氏冷泉節

貞享五年戊辰年正月二日
尚長江及び大津の仔細

大塔宮熊野落

日年九月改元
元禄元年十月十二日

定家郷小倉文紙

日二年正月二日

天智天皇

尚夏泉及櫻木紀乃等行 同年三月三日

今様柏木

尚冬亦於此 同年八月十五日

自往岳士

元禄三庚午年正月五日

源氏十二段

尚秋 同年三月三日
奈良 和久

續談記

同年十月十一日

今様柏崎

尚春 元禄五壬申年正月二日
尚七の社

日本西王母

傳真松岡 同年四月八日
尚秋

愛子若都富士

元禄六癸酉年正月二日

平假名太平記

同年三月三日

新本領名我

同年五月六日
尚秋

辨慶出生記

元禄七年甲戌正月九日

松尾 束帯濫

傳真松岡 同年三月三日
尚及

討後別為實盛

元禄八年乙亥正月二日

多田院開帳

日年二月六日

秋如 延生會

簞近松出乃 日年四月八日
為長秋塚 赤良 初及而、乃

謙田兵衛名不孟

日年十月十二日

忠信廿日正月

為長伊勢、乃
元禄九年壬子年正月八日

當麻中將乃

為長淡乃、乃
日年四月十四日

系我經追苦女翁

日年九月九日

形須市山極威

元禄十丁丑年二月初日

新板腰鐵狀

為長泉乃塚、乃
日年四月六日

賴朝伴至日記

作者 近松因乃
日年七月十五日

百日為我

日年十月十三日

初八園病乃我、乃也、乃於中法加聖極
淨乃、乃、乃近松氏乃伴乃、乃、乃定日一百日

お勤め一力入ふとあもて百口を我々
云けり分八百日と勤めりてハ改変カカる

今様小栗判官

作者
近松因与

元禄壬戌寅年二月十日

小畑道風記

同年五月八日

義経東六法

同年六月五日
あ秋伏尺中書信文子伊勢、行

源氏鳥帽子抄

二五目

元禄壬子卯年正月二日
あ春兼夜更、行 末五佐掾古浄、行

本満道虎言

同年五月六日
あ秋備中文内藤辰宮、行

浦崎年代記

同十三三月廿
作者近松因与

長町女版切

正月六日
作者近松因与

淀親世世流傳

同年四月八日
あ夏候志、行 作者近松因与

因幡茶屋傳記

同年九月九日
あ喜多傳、行

蟬丸

作者近松因与

元禄壬午年辛巳二月六日

竹本美吉史後極原増茂と勅許書紙の
取めと勤めりて今辛巳十一月廿日

神鏡栗万石

同年八月朔日

吉野忠信

宝永四丁亥年正月廿日

茶去飛石信三辰月と
切堀川波の報

同年二月十五日

茶今川了後
切おろ免卯月の報

同年四月廿一日

茶根元多我
切後日卯月以上

同年六月朔日

茶源氏十二辰
切丹波と他信赤室者

同年六月廿四日

酒吞童子枕言

作近松門左馬

同年九月九日

茶湯吞童子三辰目と同上
切おむめ
之書しお中万々者

宝永五戌子年四月十六日

茶湯吞童子三辰目と同上
切おむめ
之書しお中万々者
茶湯吞童子三辰目と同上
切おむめ
之書しお中万々者

今川制約条目
茶今川三辰目と
切おむめ
之書しお中万々者

宝永六丑年正月二日

茶今川三辰目と
切おむめ
之書しお中万々者

同年三月三日

茶新天報
切おむめ
之書しお中万々者

同年四月八日

紅糸将釵本地

寶永松尾
同年九月九日
為冬依之中書時々

二反 嬭山姥 集道松園 日年七月十五日

傾城吉園深 同上 日年十一月二日

河内玉姥之史 集道松園 日年二月二日

天神祀 集道松園 日年二月廿五日

宇反彦を史初て中座後と方おをて
名と改む天お山とて安座り

孕常盤 同上 日年七月十六日

新撰大職冠 同上 日年十一月朔日

相摸入乃千匹犬 同上 日年四月八日

境口 娥方加敷多 同上 日年八月朔日

後後極事為八月中旬より病氣少て引也
係中書におけり代終ふ為あり十月朔年

あ千田女とて死をせし流法名ハ兼道七姑と号
せり付人其流身ハ直ま子ニ乙丑年より為

云程々々子歴三十子浄有り此千田敷と縁不
掛と云ゆれり子若助の衣巾ハ若所為を史

普光寺御堂供養 同上 同年十二月十二日

本朝之國志 同上 享保四年己亥二月十四日

女後寬 牛島 平家女護持 同上 同年八月十二日

傳系蛙合戦 同上 同年十一月六日

國性翁合戦 二交目 享保五年庚子三月二日

井筒河内通 同上 同年二月二日

双子隅田川 同上 同年八月二日

日本武尊吾妻鏡 同上 同年十一月四日

小つり 公中天網海 同上 同年十二月六日

播磨國史婦地 同上 享保六年辛丑二月十七日

女教池地獄 同上 同年七月十二日

信笈川中鴻合戦 同上 同年八月二日

唐船嘶今困性爺

同上 同七年寅正月二日
式志史出府

浦嶋年代記

二交目

同年三月二日

公中育庚申

同上

同年四月廿二日

祇王 佛濟系麻軍
祇女

傳者松田和吉同年九月廿日
茂志史出府

大塔宮暇鑑

傳者竹田出雲
松田和吉

享保八年卯二月七日

空月 振町昔名苑

同年十二月廿四日

將軍太弟良門

出羽冠者損平

関八次較系馬

傳者近松門左三

同年正月十五日

尚三月廿一日大坂中大火芝居被燒去同月八日假芝居
了之酒吞童子持統天皇相摸入及十日替示お勤り

三國志大全
諸葛孔明

鼎軍談

傳者竹田出雲

同年七月十五日

右大將謙念実記

同上 同年十一月四日

尚土月廿二日近松門左三死

出世握虎雅拍終

同上 同十年己五月九日

和名水志史出府

渡鳥羽忍塚

同年六月十八日

表志史出府

三浦大船紅梅約

箸長翁十四文耕堂 同十八年二月十五日

信及姨捨山

同上 同年八月初日

須磨都源平瀨濁

同上 同年十月十五日

困性翁舍紙

三友目 享保十六年辛未五月五日 天海具負組合之表ニ初ノ帳ヲ著

鬼一法眼三略卷

同上 同年九月十三日

増補用明天皇

二友目 享保十七年壬子四月朔日 淺入公澄政を丈三法友二布出考之形相竹ニ著

伴達深之綱

作者近松因島 同年六月八日 本簿より信大十友布

檀浦兜軍記

箸文耕堂 長翁十四 同年九月九日

大内裏大友真鳥

三友 享保十八年癸丑二月朔日 尚三月十二日大和老夫妻

右平記 車返合裁撰

作者文耕堂 同年四月八日 和合老夫妻又出見

今方大益老七人形

尚六月廿日芝蔴次大徳家芝蔴之 奥之紙の刻かと仕初公 系事抄夫の上京鬼一法眼困性翁

松山 元日今年紙

同上 同年十月十五日 七老夫妻

小栗判官車街道

箸十前抄同年八月十九日
元文四年巳未四月十一日
鳥を夫初て出産

望みかみ盛衰記

元文四年巳未四月十一日
鳥を夫初て出産

今川本領楠魔館箸

女耕堂
千前抄 同五年申四月十日

将門冠合鏡

同上
日年七月朔日
七月国々

前百日月方二家 二交目日十一月十一日

切亥八卦柱曆 近松門左の十七日自京遠長

伊豆院宣源氏鑑

同上
元文六年辛酉五月十四日
百合を夫紋を夫初て出産

新くは書物抄箸

女耕堂
竹田出雲 寛保元年酉五月十日

此は出動とらぬはを夫初て夫百合を夫南冬とて夫は二人は
携摩振内五を夫紋を夫七を夫之後方落込二弟小お勤印

夜衣いのは縁起

寛保二年壬戌二月十四日
玄冬内匠を夫返産

室町千重子

夫婦浴二交目 四月十七日
出語を夫はを夫ツレ湯を夫三後友二弟

男化五房合

作者
竹田出雲 日年七月二日
南冬後はを夫出産好死は

入鹿大信曾於神

寛保三年癸亥四月六日
日日出産

丹次爺步栗

箸竹甲虫雲 同年五月十八日

大内妻大友貞多

三 同年十月廿八日

兒源氏道中軍記

同上 延享元年甲子三月廿九日

江々かふ益表託

二 同日 同年十一月十六日

切據磨極進長

八曲龜掛後 出流 いふ丈改を丈百合を丈袖を丈 藤原五子

軍法富士見西引

箸並木千柳 同年五月十二日

其冬浪花鑑

同上 同年七月十六日

楠昔吟箸

並木千柳 延享三年丙寅六月十四日

佛法花之將軍

二 同日 同年五月四日 初日法示

公中重井筒

左 二帝人飛出きの 若田文之 山平伊予治

菅系傳授名督鑑

日 八月廿一日

傾城枕軍鏡箸

並木千柳 延享四年丁卯八月廿三日

義經千本抄 竹田出雲 同辛十月十六日

假名手本忠臣藏 同上寛延元年戊辰八月十四日
並木千柳 南十月以之文侍之夫百合大夫去之文退死

菅原道滿大内鑑 同上 日年十一月廿二日十月日

尚冬大隅極再勅内近之夫了了千賀之夫長門之夫去之退死
出在古系改之夫棉之夫依之夫之上總之夫又物之夫字之夫退死

栗鴻禧嫁入離形 同上 寛延二年己巳四月十八日
切出治之夫大隅極之入子賀之夫友之

双蝶之曲論日記 同上 日年七月廿四日
尚友之味也三條侯友二弟死

源平布引傳 同上 日年十一月廿八日
尚冬上總之夫死

園性翁合戰 日亥月 寛延三年庚午七月十六日
九仙山大隅極之夫友之夫三條侯侯之夫

文武世継梅 同上 日年十一月廿四日
今ノ紋之夫初之夫出死

恋女房深分子經 同上 同四年未月
三好松涼 六月至

道成古所仕事 同上 吉田文三弟 大鼓吉田之族笛吉田之夫
益分切探踊 人歌 日年同之夫又弟 小鼓相竹之夫大鼓相竹之夫

及行青大出峯極 竹田出雲 日年十一月廿五日
大隅極大和極之變死

名筆傾城檻

吉田冠子
三好松洛

室仁年三月廿三日

世流言漢楚軍旅

竹田外記

同年九月十日

款討襁褓綿

二月日 同年七月十六日
大和根上京流真之支退元位の支退也

伊達錦五十四郡

同上 同年十二月十六日
大和根上京流真之支退也

愛護雅名款務岡

室曆三年癸酉五月五日
以支退綿之支退於以組支退也

草蒲前探弦

寶曆四年甲戌三月三日 二月日
大和根上京流真之支退元位の支退也

小神紐貫練門平

同年四月十七日

彰之次書物終

二月日 同年七月十六日
佐佐木支退元

小節道風青柳規

竹田雲同年五月三日
三好松洛條大支退元位の支退也

前相摸入道

二月日

寶曆五年乙亥七月十六日
大和根上京流真之支退也

前柏玉角淨福溜合

同年十月十六日
友之次支退相之支退也

宗徳院瀧法傳祀

寶曆六年丙子二月初日
綿之次上京流真之支退也

鬼一法眼三畧卷 二五目 同年六月朔日
播磨板十三面三返返長

男化五序令 二五目 同年八月二日
改を丈上京

平惟茂凱陣紅葉集 竹田雲 同年十月十五日
三好松治手宛を丈出舟十月瀬

娘小松子日の棹集 吉田冠子 同七年丑二月朔日
三好松治宛を丈出舟十月瀬

漢麻子多妓漫 同九年九月朔日

大和極上京石合を丈再勅の時以勅の意政を丈端を丈
多受を丈濤を丈石合を丈終を丈中を丈端を丈歩を

昔男喜日世新 竹田雲 同九年十二月十五日
妻を丈京を丈

敵討出宗禪古三場 竹田雲 同八年三月十三日
竹田雲

菅原佳文手習遊 二五目 日年五月十五日

名振遊 二五目 七月十五日夕及夜
堀内 登中 勅

軽小治武勇向答集 竹田雲 同年八月十九日
同遊 大和極京より

日高川入相花王 竹田雲 同九年二月朔日
大和極吉田文三郎休

冬菟雜波梅

同年十月六日

人形歌見世夜芝居十日のみるお佐と云
有田之末末改文之命と云はるは眺乞ぬまひ

百戰場清熱如松

二歩切 同年十二月廿日

高賀方丈 中右丈 退座

慈女房深分子綱

二交目 同曆十二年午七月二日

改右夫上京 百合を災死云々

奥州安達系

同年九月十日

改右夫幽京

假名手印忠臣蔵

二交目 同十三年六月十日

尚正月九日竹田芝居執燧三舟竹中彦々
おかり侍るりりりり竹田くくくく
折込七切進出ー格文々々々々

秘 山城國畜生塚簀

近松半二同年四月十三日
竹中彦清生駒美濃守漢金退座

後天竺德安御鏡 天竺の十かた
破去失以在

前後一日替り

前諸葛孔明鼎軍鏡 白年八月二日
二恒目を中左夫返在

後清前多り淨極理相撲 大和極一世一代三味
世人云ハ

九月十八日切古端、新

御所極堀川夜討 同年十二月九日

極月十八日切古中 年在中 江戸表、新

京持二重娘形氣集 近松半二同十四年又月廿八日
竹本良兼 岡合美始白出座

歌討雅拙記 同年七月十八日

江戸搦巻教書我 同年十二月十七日

江戸表、切夜又日登十日、石お鞠

飯名手本忠信系 同同十二月廿六日

榮奢待勤田京原近松半二 昭振二年正月

愛護租名秋傍岡二丁目 日年八月六日

濟急被柳寄車探 日年六月十二日

苗七月十日竹本改去吏死去

姻袖鏡作著近松半二 日年九月十二日

會社云役者双云作著近松半二 日年十一月六日

富士日記菅浦刀

事始室子むら 日年十二月七日

本朝北田孝作著近松半二 日年三月十四日

前見源氏二辰目作著近松半二 日年六月十九日

小夜中山鐘由来 日年七月十八日

右平池忠厚海澤作著近松半二 日年十月十日

四天王寺雜木像

同四年壬寅春

夏祭小浪花鉉

同七年七月十日

茶之元軍本末永春

鑿近松半二同年八月四日
竹本寺東邊河京坊

石川八重一伐嚙

同上

同七年十月十日

泉州小田長茶屋

三日太平

已同上同年十二月十四日
木之末の末夫出在

中より改められたり

傾城阿波丸鳴門

明和五子年六月朔日
名代近松門五

いり節 崎大夫竹本と公勤 後藤大夫 深大夫
君大夫 総大夫 あり

きののおおれ
おのほえ

よみ 芝三巴

著 近松半二
竹本寺東 同年七月朔日

初櫓探目録

同七年九月廿四日

殿造千丈嶽

同上 明和六世年八月朔日
竹本寺竹本邊と壱本寺竹本萬三

近江源氏先陳館

同上 同元年十二月九日
再真座本竹田新和

近江 太平頭整飾

明和七寅年五月廿二日
同六月廿百切お止むふ出

廓名陸奥 秋大名領城款討 門年八月十六日

款討襍襖錦 上中下
用明天王撞入之後

門年九月五日

出切り竹本待太夫ツレ流津太夫文太夫
三絃お流次文花人形吉田也二

切=穴意探

おとひ上り近松門在り
お流次文竹本流後

忠臣藏
武士鑑
忠臣講尺

通失数四十七本

松久
松山

由縁九十徳

門年十一月十五日

け節吉田文三江戸よりおとり故人文三
十二回忌進善公おとひお他り

切=神靈失口渡

け節竹本春太夫ステケ出
但忠臣講尺道行

十三徳
お柳

妹脊山婦女庭訓

明和八卯年
正月九日

け節 春太夫流太夫 総太夫 咲太夫
筆太夫 三根太夫 握太夫 少人

今年四月下旬よりお表おとりおとり
おあおとりの五組おとりおとりおとり

艶祝詞太々神樂

口年五月

本少出

色為替曲輪之通

口年七月外野中

本少出

彦三 朝迎三途雲

口年八月十一日

本少出

高至方東山殿 様御殿五十二驛

口年五月十九日

座本竹田屋

上客二休禪師 以是竹本大隅七回忌政大夫十三回忌追善にて

大切おどけ上り 雷太郎君代言葉

禁大夫出

躰方武士鑑

明和九辰年

四月九日

見取淨海利

口年八月朔日

刀屋半七纏初花 達模様愛敬曾我

安永三巳年正月九日

座本竹田氏吉本少出

小田角髪 羽柴産髪

嶋原子五鋪

口年八月廿一日

本少出

三十二相刀双競

口年二月五日

本少出

性根競姉川頭巾

集 同三年四月廿日

座松半二座本竹田徳之助

役者評判身振操 口年十二月六日座松半二
古号よりその年ふ出

東海道七重艇梁 安永四未年二月九三日
座本竹本義大夫

塩飽七嶋雅陳取 安永五年九月九三日
座本竹田万三

日本歌竹取物語 安永六酉年二月朔日
座本竹本深大夫

繁花地男鑑 安永八年七月廿六日
座本竹本義大夫

立春姫小水公 安永九年子正月七日
座本竹本義大夫

新板哥祭文 集 同年九月廿八日
座本竹田新委太支竹本組太支

時代織室町錦繡 天明元年丑二月廿四日
座本竹本義大夫座

道具屋お龜 同二年寅六月廿六日
竹本内匠太支出座

新うら雪物語 同三年卯正月
如々見山旧錦繪 座本竹本太市竹本佐太支座

伊賀越道中雙六 同年四月廿四日
集近松半二

此節竹本染太支 同佐太支 同男徳齋 名本美事
同鐘太支 靄沢文藏 吉田文治 同冠藏本出勃

比良嶽雲見陣立

同六年午六月五日
座本竹本千太島

彦山權現誓助劔

同十年十月十八日
政太夫 麓太夫内匠太夫

安徳天皇兵器貢

同七年未五月朔日
内匠太夫退座竹本沈太夫出座

增補織合團七嶋

同一年六月十八日
本不出

鬼一法眼三略卷

同八年八月九日
麓太夫退座

寂明寺殿由緒礎

同八年申十二月廿五日
豐竹錦太夫出座本不出

笠節

竹本政太夫 同跡太夫 同次太夫
矣 同内匠太夫 同中太夫 同氏太夫

濱真砂千町封疆

天明九改元寛政元年酉九月廿日
座本竹本文治即本不出

故節 豐竹林藤太夫竹本振太夫竹本鐘太夫
座竹本約太夫竹本綱太夫野沢吉去滿勒 竹本三稻太夫

故豐竹馬太夫 十二回忌追善 壇浦琴責

同年十月廿八日
出語同 藤太夫 約太夫

戀傳授文武陣立

同二年戌十一月十五日
座本 竹本徳太

試節 竹本政太夫 竹本内匠太夫 竹本頼太夫
竹本銀太夫

右平嶋戸川船唄

寛政五年二月九日

横山郡依那
小栗判友益氏 照天姫採車

作者栗田村也

蝶花形名歌嶋臺

○為流豊竹致赤少極 初ハ若者也

道長坂之芝花身初の始め之縁十五の此

坂井上之流竹本ホの先師達の津留橋と津丸

より傾成懐内子是新能の初也之縁於埋紀州

南繁少之芝花と無初之縁及之縁十五壬午より

乃流河之室芝花と初之縁初外初流初初と縁

東山殺子日遊

元禄十二年卯年三月十日
今依加茂保古傳云

源三位頼政

本口以
口年五月六日

源君袖日記

大職冠知略玉取

口年七月十五日
井上攝摩孫古傳云

傾城懷子

新作

口年八月廿八日

依々木大濫

竹并統後椽古物

口年十月十三日

前未廣十二段

著

元禄十五年辛五月廿八日

切心中段の玉の井 紀海考

前源氏烏帽子折

切今金の布浮名額

口年八月朔日

東岸居士

同辛
九月九日

小野小町都年玉

作者
紀海音

新百人一首

口年十月十二日

新板兵庫築多

作
紀海音

元禄十六癸未年五月七日

今様殺生石

當妻泉及蝦、竹

口年二月十五日

坂上田村磨

口年五月五日

今川 了後 青砥刀

日年七月十五日

信田木森女右

日年九月十日

熊谷三ッ子盃

日年土月朔日

増補佐々木大盃

元禄十七甲申年正月二日

前東大金

切八音屋を七哥祭文

為四月宝永上改元

日年二月十五日

いろはノ始千文滝

宝永元甲申年六月朔日

女長田車橋

カキコトキ せんりょう
為秋奈良

日年七月廿日

傾城富士嶽

日年十月廿一日

英波 森物語

宝永二酉年正月二日

三井寺狂女

日年二月十五日

泉及枕物語

日年四月八日

傾城二河白道

日年七月十五日

曾我三部經

日年九月九日

播及曾根松

日年十月廿八日

傾城鄭躡岡

傳

宝永三丙戌年二月九日

前紀三井古閑此

同年三月四日

切男色加茂侍

傳者綿文流おれ八統後降より之

前元服者我三條目と

日年四月十二日

切外市梅田心中 為根崎形地是者おて

聖德太子舍利都

日年六月二日

前舍利都三辰月と

日年七月十六日

切傾城千日ノ鐘 為秋ノ聲及不宮崎ノ形

増補富貴為我

宝永四丁亥年正月二日

増補日向京清

日年三月三日

今様女袖鑑

日年五月五日

頼朝七騎落

三五日

日年七月十六日

為秋泉及堀より紀及、形

身替問答

日年十二月十八日

今様西行物語

宝永五戊子年六月廿日

前新利屈物語
切梳久未の松山

日年三月三日

秦始皇帝大夫松

日年七月十五日

山楨古史意善漆

日年十月十三日

前益澤川
切敵討難波梅
三及目

宝永六己丑年二月五日

富仁親王嵯峨鏡

傳者
元海吉

日年六月朔日

前嵯峨綿三辰目と

日年八月廿三日

切笠屋三勝於五年忌

赤染清心采花物語

日年十月三日

頼光新跡目論

宝永七庚寅年正月二日

前跡目論三辰目と
切心中衣の中道

日年三月廿日

佐々中山夜泣石

日年七月十四日

前夜泣石三辰目と
切梳久慈谷笠

日年十月十六日

本朝立初辛酉
宝永辛卯年二月七日

前五翠殿三修目と傳者紀傳也
切油屋お染袂の白後以り長坂、移
日年四月八日

北國源氏金の山吹
正徳元年辛卯九月九日

平安城細石
正徳二壬辰年正月十六日

前後戸前陣
切吟中丸腰連理松
日年四月八日

前信の源氏
切新禮老夫丸
日年五月十七日

前杉浦五郎
切越後五妻雛形
日年七月十六日

八幡太郎东初梅作者
正徳三年癸巳二月朔日

傾城國性爺同上
日年五月六日

仁徳天皇万葉車同上
日年七月十五日

前孫及曾根松同上
切傾城三度笠曾根松
日年十月十二日

思鹿毛不佐志禮同上
日年十二月朔日

小敷盜花歌

正徳四年甲午年四月朔日
為長泉及塚、乃

御前曾我姿富士

同年七月十五日

愛子若璚箱

同年十月朔日

吉野忠信錦着長

正徳五年未年正月廿日

前吉野忠信三辰目上
切相成思辨、乃

同年五月五日

記録空我玉算留

作書
戸門不辨 同

同

天智天皇豊年秋

同年九月十日
是八院巨澤乃

鎌倉尼將軍

為七月享保下改元
正徳六丙申年二月朔日

花山院都葵

作書紀海考
享保元丙申年七月十六日
為冬奈良、乃

甲陽軍鑑時世

同上
享保二年正月三日

西行法師墨染襦

作書
錦衣流 同

同

照日前都姿

同年九月二十八日

後倉三代記

著作 初日

享保三年戊戌正月二日

今年を夫の上世の振成系承務と交知は
は弟八代世を夫万を夫文を夫おおむ

傾城吉系雀

すめ

日年八月朔日

十月国

今様賢女手習鑑

日年十一月五日

義経新言

どろ

著作

享保四年己亥正月廿日

神功皇后三韓責

んせめ

同上

日年五月十五日
尚秋泉洲課

業平昔物語

同上

日年十一月朔日

鎮西八布唐土歌

同上

享保八年庚寅正月二日

富仁親王源源綿

二

日年七月三日

日本傾城女

同上

園十九

山林女流系雀

同上

三輪丹系

同上

享保六年辛丑正月廿日

伏見常盤昔物語

日年八月十六日

七月国

吳越軍終比翼其公

傳者記法言
同年九月十一日

大友王子玉在靴同上

享保七年壬寅五月二日

公中ニツ腹帯

同上 同年四月六日
尚夏秋場より紀及乃

東山殿室所合哉

同上 同十八日朔日

玄宗皇帝うら遠業うら應

作者紀傳音
同八年正月廿日

祀祿る我

同上 同年八月廿日

傾城無間鏡

同上 同年七月

井筒屋源六うら名晒集

西沢風
田中手柳

日本建仁寺供養

同上 同年十一月三日
三輪を走知く少彦

頼政追々芝

同上 享保九年甲辰二月朔日
四月国主

尚三月廿日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
芝居も焼燼存四月廿三日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
芝居も焼燼存四月廿三日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
六月廿三日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
け節乃大坂今うの芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
存勢も芝居も焼燼存四月廿三日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の
の芝居も焼燼存四月廿三日大坂中大火芝居も焼燼存四月廿三日大坂の

女蟬丸

同上

享保九年甲辰十月十日

切三昔采万石通

同上

享保十年乙巳正月二日

女蟬丸三辰日ナク

南北軍同答

同上

日年三月一日

身替弓張月

同上

日年二月六日

和泉左史不之史初テ出テ

大佛殿五代礎

各耕堂日年十一月二日

南之京於ニ以源金三代記

曾我錦儿帳

集

安田姓又

享保十二年丙午二月朔日

新之史初テモテ

北條時頼記

集 栗原

享保十一年丙午四月八日

切三雪乃辰

右夫上地椽ヲキ和泉左夫三法地保森八郎
出テハ人形後井小三郎近於九八郎中村之云

以テ印表世を夫不之夫三輪を夫ホカトシ
依者西次一風 並本之助 安田姓文

清和源氏十五辰

集 並本宗印
安田姓文

享保十二年十月未二月十九日

辰辰日格侍大夫ワキ三法太旨ツレ不之夫

攝津国長柄人柱

同上

日年八月十九日

切三芦新出結

右夫上地椽出テハ人形後井小三郎
ワキ和泉左夫之云人 地保森八郎

八百五十七亥緋袴
兼余三代記三辰目也

享保十七年壬子正月廿七日
倭を夫初テ出度

今極返魂香

同年五月七日
五月国也

待賢門夜軍

同九月十日
尚冬和泉太夫三橋を夫返度

最若也忠信

三辰目也 享保十八年癸丑二月二日
要太夫初テ出度ニ付芝居の表進相初鏡

加ふ初天神祀

親多由り出度去夫越若極ツシ倭太夫
おつひ人取後井小三郎三條竹原後四郎

縁念比事喜砥鏡

傳者阿田性文伴去夫出度
同年四月十五日 其極中

羨冷人吾妻雛形作

並本宗助
同大助 同年七月十六日

切忠臣金經冊

同年十一月朔日
不志夫河内を夫ト愛名凡

北條時頼記

二辰目 享保十九年申寅正月二日
心るの床ヲ横床ニする

切雪乃辰

去夫越りあ極ワキ河内去夫三辰所候者
本老人形者并小三郎同小八郎中村勘定秀

苗目我昔見其書

葉露口也 ちくく一巻の
同大助 影を久保之人也

那須与市西海観上

同日年八月十三日
尚冬伊去夫返度

南蠻秩後友目貫 享保七年乙卯二月七日

清和源氏十五辰

旧年二月十二日

標記を夫越お極ワキ河田を夫ツン邊を夫

万屋助六二代今取

作者並木大助

同年五月六日

新萱葉門後末葉（ハ）輦

旧年八月十八日

駒を夫初より書

和田合我女舞扇

作者並木宗助

同廿一年二月四日

安江宗任松浦筆

同上 元文三年正月十書

釜淵双級巴 同上

旧年七月廿一日

和佐を夫初より書綿或可

和

輝九二交目

傾城之間落二交目

旧年七月廿一日十一月

田三

丹生山田まゝ海劔

作者

元文三年戊午四月八日

右の條より暫くお初まは長普清三村八月六日より
るる銀條新地つそ和田合我と八百を七意排振と
勤め一四二葉信成然一新造を吾より七月十
日より又丹生乃山田とお初む

新宅祝儀出紙

を夫越お極ワキ邊を夫約を夫

三未也人 行はる四布

茵染中丸井

前法西八

傳者系由由良也
同年十月八日

奥州秀衡有發誓

元文四年己未二月三日
傳者系由由良也

速仁寺供養

二交目 旧年九月廿六日
傳者夫延在

棲夜衣發誓發誓

同上 旧年九月廿六日
傳者夫延在

鵲山姑捨松

同上 元文六年庚申二月六日
傳者夫延在

本田義光日本濫

旧年四月廿七日
傳者夫延在

武烈天白之職

傳者系由由良也
元文六年辛酉三月四日
傳者夫延在

本朝初女府

同上
元文六年辛酉三月四日

吉梅擇食盛

二交目 傳者紀海志
同年五月廿一日

播州四至補誓

同上 七月十八日
傳者夫延在

田村廣於麻合載誓

同上 同年九月十日
傳者夫延在

傳者夫延在
元文六年辛酉三月四日

百合雅高麗軍記

作者乃永在系
寛保二年二月二日

切三文鴻八景物語

左支田不考史
三法此依系八景
ツ文字書史

道成寺現在立隣

日年八月十一日
載不極治左支田之今時り

謙倉大系圖

作者永在
日年十一月二日
來支田系物語於大系圖各測後河左支田

風俗太平記

同上
寛保三年癸亥二月四日
四月国云

之米仙人吉野橋

同上
日年八月朔日

潤色江戸紫

同上
延享元年甲子四月二日

枋本純信心祖車

同上
日年九月十日
乃左支田左支田
和佐左支田
退死

遊着衣紋盤

日年十二月二日

詩近江八景

河田一考
延享二年乙丑二月朔日
乃永在系

坊補大佛殿五代燈

日年五月四日
二及目 陸奥左支田

浦瀉古亭倭物語

日年八月八日
潤色
河田一考
乃永在系
十二月潤色

北條時頼記

三五目 延享三年乙丑十二月三日
式三番ニテ勤ム存存去夫初テ出テ

切寄の辰公清越ちか振ワキ内至方放上御極三條將兵表公寄
去丈元一世一代六十五才出老人政茂并小弁曰三帝若御表九帝

酒吞童子出生記

傳者聖應初國三年五月六日
尚秋京の御家極一世代久米仙人吉野橋

花代藏流鴻

日年十一月三日

裾重紅梅服誓

田名 延享四年丁卯二月十三日
傳者 上松去丈出所故去丈

万才將軍唐呈日記

同上同年二月廿二日
港去丈初出上地文字去丈退港

悪源去平浪合戦

作著出田名同年七月十五日
日辰月二條麻比仕初り人服方松島所益井ホ

空競出入湊

葉南 延享六年戊辰四月二日
お田名 年去丈出所陸奥去丈退港

東温御持巻

同上 日年七月二十日十月四日
尚十月去丈元賜三上世代ヲ初京温下悪源太

松原渡辺橋供養

同上 寛延元年庚辰十月十四日

陸奥に去丈傳去丈百合去丈友去夫 万才去丈木出所
約去丈に上上徳去丈乃去丈元去丈去丈去丈未八返港
尚去丈改りか初の去丈出所去丈傳去丈傳去丈松原去丈
百合去丈港去丈万才去丈松原去丈去丈

一谷嫩軍記

著作田名 室二九年十一月十一日
世時出勅の元 八まを夫時を夫改

並木宗補名残作
来甲の益分切三備

筑古板 約を夫に有太夫友を夫以上公
若を夫 護を二人位法を夫 今交ふか尋

倭倭名在系系圖

著作田名 同二年十二月七日
夫太夫志かを夫太夫友を夫太夫

雄結勅御賜

宝曆三年癸酉七月廿八日

新萱幸門築葉縣

二月十年十一月廿一日
右 日十七を夫か所位の太夫志かを夫太夫

相馬左郎其字文結

並木水補 同四年二月廿日
著作田名

前義経腰越状

日年七月廿九日

切金例及級巴ニ交目

天智天皇新種菴

日年十一月十八日
著作田名 表を夫にを夫

尚冬 存時を夫にを夫論り新を夫と表名は
万有を夫にを夫にを夫を夫初を夫にを夫

三國小女帝曙様

日年四月廿日
著作田名

双扇長柄松

日年七月七日
著作田名 尚秋櫻は三年奥州軍記

後三年奥州軍記

日年十一月朔日
二交目 鱧を夫初を夫

義仲勲功記

寶曆六年三月十八日
切丸菊松茂重及井小八弟

甲斐源氏振軍配

日年閏十一月朔日
日上 源訪左史初行出左

寫儘足利源上

寶曆七年十二月廿六日

前九年奥州合戰

並宗助
同年二月廿

清和源氏十五段

三
年八月朔日

統承攝二世代
口平源左史之時左史及右史及改以左史

祇園祭禮信仰記

中臣阿契同年十二月吾
田也 丑寅卯三年越勤

以名出勳
侍務子也左史及右史及恒左史初令出左

芽源氏學塚

他田也
者史也 寶曆九己卯年三月二日

以名出勳
恒左史人形及井小八弟

雜波丸金

寶曆四年
日年五月十四日

先陣浮洲巖

寶曆四年
日年十二月七日

機如賊如機

寶曆十庚辰年三月十日

松澤國長病人柱

同年八月十五日

祇園女御九重綿

著竹笛弱
中村阿契

同年十二月十二日

加賀寺之史 岩左史 森代左史 初之出左史 新左史
伊左史 源坊左史 森左史 延左史

寶曆十一年己年二月十四日 芝居新左史 依之
乃根坊新左史 依之

茶一合 嫩軍祀 二日
切八重 岩浪花 淡萩 二日 篠茶 椽 皆く 妙之 心

祇園女御九重綿

二日 同年九月十九日

右之月 常根坊 摸模

同年五月十八日

人丸萬歲 威且至 著

依竹意付
福松為

同年九月十日

新造 芝居 祝美式 三之 依 三之 出 妙之 心
切 恐 左 史 妙 依 之 言 妙 人 形 出 妙 心

三好寺慶隆軍紀

作者 栗原 康

寶曆十三年己年二月九日

岸松 總 遊 誓

依竹意付
並木 水 則

同年四月十八日

山古史乃竹及九帝以八終

志以由操軍池 曰二年五月十六日

内物手極劇 曰年七月九日

尚八月晦日切之書後非成 參詳故芝蔴成

皇魂弓勢經 於和元年庚寅三月 是竹在再與

蘇老夫七十五 恒老支 經老支 表代老支 尚二月中旬公府中 經路、以

口年四月八日 古海乃一版 札鈔十文

進出 芝居成 錦太夫出所

壽永楓 源平雅鳥越 明和七寅九月十九日 元曆梅 是竹在再與

座本曹之竹 吉太夫 崎太夫 駒太夫 付太夫 時太夫 生駒太夫 八太夫 拙太夫 房太夫

北條時頼記 口年十一月十九日 座本曹之竹 和奇三

今年故越前少掾七高 忌退善トテ 鉢木出テ 藤太夫 古勤トテ 是竹 付太夫 時太夫 退所

朝鮮 九列 与治兵衛瀧 明和八年 正月九三日 細見

は節竹本三善出勤は後乃台新
侍多は人の他多

お栞
桑桑
角額嫉蛇柳

口年五月九三日

増浦丸軍記
切忠臣義乃り九版目

口年七月九八日

は節竹本政太夫出府志居義九版め
お勤

栞の
由之
迎駕籠死期苗深口年八月十四日

嗚呼忠臣楠氏旗

口年十二月九八日

韓和聞書牘

同年十二月廿二日

は節 竹本政太夫 是竹は是是 是竹時是是
座本 竹本三善
是竹は吉
是美 竹本中是美
江戸霧沢帳風出勤

初嵐元文新

寛政元年酉五月十日

本不出

兒淵東軍記

同年七月十九日 本不出

是竹は是是竹本政太夫

天王山杜鵑合戦

同年九月八日 本不出

是竹は是是竹本政太夫

天王山杯驗合鑑

京師東軍誌

西嶺云文傳

韓味開書計

苗屋半七
女三孺 艷容女無姝衣

明和九辰年三月廿六日
因太夫公座

志の妻今物語

安永二己年三月十九日
おふ出

釜淵双綴巴
様深恨鮫鞘

門年十一月廿二日
經太夫公座

惣林北男鑑

安永三年三月廿六日
おふ出

菅原傳授半習鑑

安永四年三月十日
豊竹嶋太夫一世二代

は後を竹和赤三を乃経友影上りふ出言多
又どうおそとていふと出れども石おを助多

船哥唐音 船頭德藏 汐境七草 嘯

天明二年庚十月 各代近き門左の 太夫花竹氏を更

以時美花竹氏を更 同文字を更 同綱を更

金淵双汲巴

同年十一月八日 座中近き門左の

以節 肉運を更 和佐を更 公座

綱を更 吉田文三郎退座

石高千五百 廓景色雪夜茶會

同七年未九月廿日 座本 竹中千名郎 花竹氏を

東芝居下花竹氏を更 花竹時美花竹中を更 花竹中候を更 左更 花竹中政を更 花竹花更 花竹夏倉を更 花竹伊更

北堀江市側芝居

座本豊竹氏土口 太夫豊竹氏太夫

今年明和三戌のく北堀江市側を

豊竹座新芝居真行彭洋弓外題

九之

深模様妹脊門松

明和四年十二月十五日

駒太夫氏太夫生駒太夫時太夫八太夫氏太夫 八重太夫光太夫絃太夫佐太夫桂太夫

攝列合邦过

安永二年二月廿日
徳太夫出立

起請方便品
書置壽量品

伊達娘戀緋麻子

口年四月六日

口年 藤太夫退立 君太夫出立

南無三宝
正三進善

極樂往來蓮奇初

口年七月廿七日
細太夫出立

呼子鳥小栗実記

口年八月廿七日

けいせいの花御

口年十二月廿三日
結太夫君太夫退立

口年 一夜宿根清彰化芝居之右方より出立

時太夫死去

藤太夫出立

花祥會秘旨掲布染

安永三年八月十三日

口年 江戸、房、真、口年 藤太夫
江戸より出立

軍術出口柙

安永四年正月廿九日
口年 藤太夫死去

倭歌月見松

口年九月八日

鯛屋負種歳旦隠

安永五年正月廿二日
作者近松半三出立

三国無双奴請狀

口年四月三日
作者近松東南出勃

蓋壽永軍記

口年九月八日

おん人
長を桂川連理柵

口年十月十五日
は節綱太夫死去

唐丸新艘始

外郎をくを本上公

端本姿録倉文詔

安永六酉年正月九日

伊賀越桒掛合羽

口年三月九日

置産今織上布

口年五月十九日

融大臣塩竈櫻花

口年八月十五日

女小學校平治見臺

口年二月九日

御堂前萱蒲帷子

安永七戌年正月九日

以呂波
行狀記讚別屏風浦

口年八月六日

妹脊結町家仙人

口年五月十日ヨリ
つち了敷見色

田村九錢鹿合戰三切道 口年三月廿一日
風流戲曾我 宴浴衣清十郎染

今様乱柏子

蘇奈夫時笑呷夫病伏三三卷松子
公可了公佐久

近江國源五郎鮎

同八年亥八月十三日

今盛戀皷櫻

同年十月十九日

色嘯庚申待

同年十二月十九日

八重右更出座

東山殿幼雅物語

同九年子二月九日

稻荷街道墨染櫻

同年九月廿二日

後太平記

十三卷目 時代織室町錦繡

天明九年
五月廿五日

碁太平記白石嘯

同年

是七月九日他日查場

合詞四十七文字

同年九月十三日出不出
此降福程原利園以珠出板

吾妻海道茶屋娘

同二年寅九月廿六日

節

卷竹以之更 卷竹於之更 卷竹村之更

卷竹禁裏

卷竹振衣更

未出勅

若竹友公節更

義仲勲功記
近頃河原の達引

同二年卯

在竹八重在勲也

太平義臣礎

同四年辰正月二日出不出

在竹氏在安元去以

木下以陰栲間合戰

寛政元年閏二月廿一日
以在在栲間合戰時在

博多織戀錡

同五年五月九日

在竹以母

在竹以在在在竹内在在在竹以在在
床跡在竹中在在在在竹林在在在在在在在在在在

有職錄倉山

同五年八月十五日

在竹岡在在在在

星月夜百人上鵲

同二年戌

近江八景石山遷

同五年

彫刻丸小刀

同三年亥二月廿一日
伊在在在在在在在在在在

會稽故鄉錦

甲斐 依德 世傳西國志

花楓都模模

寛政三年六月十一日

按倭國長柄人極

寛政四年九月廿八日
四月廿七日

切義仲勲功記

三切 二代義仲以左
三味 鶴岡宮治勲

鼻子女流銀花

同 五年九月晦日
教見世存附

大坂取々新淨並利混雜

須磨内裏鬪弓勢

北新地北本和泉座
宝曆五年申正月三日

正保四年 糞水絹川堤

あまの川口方座本
明和五年二月十五日

小春 治美 中元樽掛鯛

口本芝居座本
明和六年七月九日

東口咄 傾城浪花抄卷

口本芝居座本
明和五年十月十四日

振袖天神記

口本芝居座本
明和六年正月廿七日

連管三番叟
関取二代猪貞附

口糸谷芝居在末並木正三
明和五子九月

笈衣裳鳳染

口芝居之座本竹本春士口
明和七亥 壬戌六月九日

聖徳太子 利生乃池水

口座之口年八月廿二日

小いふ半之坊 鄒色上

わさし沈東芝居竹本総太夫座
明和五子立月十九日

裾重浪卷八文字

口座之明和六世二月十二日

初物八百屋献立

口座之口年

廿六出

平家義臣傳

口座之

一本止出

勇乃兼道 魁鐘岬

口芝居之座本豊行若太夫
明和七亥 壬戌三月十五日

園生代竹本

口糸谷芝居竹本若太夫座
明和六世九月九日

代代詩画 世徳神祇

いんは威三組盃

口糸谷芝居座本漆太夫
明和七世七月九日

心中紙屋治兵衛

口芝居座本竹田力節太夫竹本
漆太夫 壬戌四月九日

漆太夫 政太夫 握太夫 咳太夫 彦太夫 文字太夫

道中龜山嶺

口壺口年七月七日

往古曾根崎村囀

口壺口年九月九日
政太夫退座

假名寫阿土問答

あ永九年一月四日
竹中深右美彦

襪襪錦今様織留

天の元年五月六日
堀内西之丞居

座竹田新松

太美竹中政右美 男徳彦

詠右美

甚右美

中右美

は陣海程ハ先子古深より歌付つて此の跡真竹の古
古今の大あり有り太美手提の帳より此傍補亡丸形他之

天白唱ふ糸糸時雨

同二年寅三月小形地芝居
竹中深右美成右美銀右美

女節用操鏡

同三年卯四月本不出
小笠原右美竹田新松居

年忘長生囀

同年七月竹中男徳彦勅
太美竹中組右美幾竹約右美竹中詠右美幾竹磯美

大切艶書合

同七年未十月十九日
乃頓堀竹田芝居にて座竹中万能

幾竹林蘇右美

竹中内右美

竹中磯右美

迎妻車二死云

碁太平記白石囀

同八月十二日
少形地芝居云

竹中深右美

三二五

初冠賤東帯

安永四
五月九日

拵弁記古跡鑑

安永三
正月十三日

梯姫標全

安永五
正月二日

江省幔糸商人

安永六
三月

増補河内通

初冠
外巻

志賀北畝討

灑山比翼塚

あぶら
七羽
犯あり

和泉北三郎

八幡北太郎

関取石鳥井

當世摸樣往古新

往昔
摸樣
龜山染

嫩窠葉相生源氏

あぶら三年四月晦日
犯あり

以七扇富士

あぶら七年
八月廿日
犯あり

糸様本町育

あぶら六年
三月十日
犯あり

戀娘肯火

あぶら四年
九月廿五日
犯あり

色揚瀬川染

あぶら五年三月廿日
肯火は染
犯あり

伊達競阿國戲場

あぶら八年三月廿一日
犯あり

増補會日 枕音山

けいせい、扇富士
外題かへ

和泉式部羽端栴

あぶら三年大巻り
犯あり約書あり

麥万歳嶋臺

あふり
初冬
巻末勅

東吹名物男

東唄操文章

天の七月
護所記

増補腰越狀

犯あり

後日菅原

汝境七草双紙

納太刀譽鑑

あふり
八年
七月六日
初冬
支度

靈驗宮戸川

同九年
三月二日
犯あり

碁太平記白石新

同九年
正月二日
初冬
支度
紋太夫
八番
若生
初冬
支度

裙重血紅跂

同九年
正月廿三日
犯あり

ぴり唄今物語

天の元年
正月二日
犯あり

鎌倉三代記

天の元年
三月廿七日
犯あり

おちよ半兵衛

天の元年
五月七日
犯あり

荒御王新田神徳

あふり
八年
二月八日
結城氏

お友清十郎

天の元年
七月
犯あり

おせん七右衛門

天の元年
五月七日
犯あり

加々見山旧錦繪

天の二年
寅
正月二日
初冬
支度

伊達娘戀結鹿子

天の元年
卯
正月二日
犯あり

七草若菜切

同二年
七月十五日
犯あり

留羅先代秋

同五年
三月
結城氏

石田詰將基軍配

同三年卯正月二日肥前
竹中政幸美談若手越奈美

内百采由富士太皞

同十年十月廿五日
肥前竹中政幸美

近頃河原流達引

同五年九月九日
肥前竹中政幸美

村上野卷石

同八年八月廿日肥前
竹中政幸美高田奈美竹中政幸美

此節隨下夜夜竹中政幸美
竹中政幸美下夜夜竹中政幸美

筆始いろは曾我

寛政三年亥二月
薩廣

京都

浪花の地深
洛陽の酒色

増補女舞釵楓

座本扇谷豊吉振
明和元年八月四日

都朗詠
東萊注

住吉誕生石

竹茂都大隅
寛延元年九月三日

咳分赤間関

竹本勇太夫
明和四年九月九日

小田館雙子日記

扇谷和而太夫
明和七年八月十日

競伊勢物語

豊竹嶋太夫
安永四年八月十日

以上より八才級中芝居嵐松下元
新舞妓物語云々
徳太夫春太夫相伝云々

源平二張弓

昭和
本不出

富士日記菖蒲刀

昭和三年五月十七日
竹中義之丞氏

佐々木高綱武勇日

昭和七年二月廿日
竹中義之丞氏

伽羅先代秋

同年九月三日月迄海より
右更竹中春之丞氏

以時竹中春之丞氏一世一代

花京家執鏡 未勸む

菊萱菜門築紫鞞

同八年
疾竹中義之丞氏

曠勝負廓環

あ承二年壬二月廿一日
竹中岡右丞

聖德太子 四天王寺伽藍聖德太子百父並未正三佐
守屋大臣 空門七廿四月六日

競伊勢物語 中世居座本荒松下
書永四未四月五日

平家朗詠 相生響此松 書永七戌九月
源氏策法

花飾三代記 天明元年五月八月
是光元貞の仿と木子探也

花槽名取関

下総國かき秘記 あ承八年亥八月

今昔妹脊服帯 室一十三年未之月
文章考考考考

乱曲扇拍子 越後産

奏竹鐘伊左文字 奏竹和仿左文字 竹町左文字

奏竹弓左文字 奏竹木林左文字 竹吹左文字

竹武左文字 竹續左文字 竹三振左文字

竹音左文字 竹和左文字 竹振左文字

竹山... 竹山... 竹山... 竹山... 竹山...

竹豐故事

採芝居澤より東由香石
三味縁舞採人形末由香石

東西採林

全冊竹中茂竹西庭採利
出末

寛政五丑年新增改正作者一樂子

書肆

大坂堺筋長堀橋中町

文粹堂 増田源兵衛